

市の認知症施策



市では認知症を予防したり、認知症患者の人を見守る人を増やしたりするため、さまざまな活動を行っています。

支える人を増やす

チームオレンジ



チームオレンジとは、認知症サポーターなどが支援チームをつくり、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組みのことです。市でも立ち上げに向けて検討を進めていて、6月26日にキックオフミーティングを開催しました。認知症サポーターや市の職員が、認知症になっても、誰もが安心して暮らしていくにはどうしたらよいかや、認知症サポーターとして出来そうなことは何か、意見を出し合いました。

もしもの時の見守り

事前登録およびQRコードシール配布

認知症などにより、判断力や記憶力が低下し、道に迷ったり、自分の家が分からなくなったりしてしまふことがあります。万が一、行方不明になった時に備え、名前・住所・連絡先を事前に登録し、早期発見・保護、早期の身元確認につなげる制度です。登録された情報は警察署、地域包括支援センターと共有します。

QRコードと事前登録番号が印刷されたシールを長寿介護課で配布します(1回につき、20枚配付、無料)。このシールは衣服等に貼ることができるため、普段身につけている上着や帽子などにご使用ください。



症状を和らげる

ココ・カラ元気広場



ココ・カラ元気広場は、認知機能の衰えが見られるMCI(※)期の人を対象に、月2回程度、市内の地区センターなどで開催している教室です。介護予防のための体操を毎回行い、音楽やリズムに合わせて指体操をしたり、脳を刺激するゲームなどを行います。一人で家に閉じこもってしまわないように、楽しい雰囲気づくりをして、利用者の人が楽しみに来てくれるようにしています。

※MCI…「軽度認知障害」のことで、認知症ではないが、軽度の認知機能の低下を有する状態です。適切な治療・予防をすることで回復したり、認知症の発症が遅延したりすることがあります。

平成19年から活動を行っています。認知機能の衰えがみられるMCI期の人に声を掛けて参加してもらっています。指体操は、最初はゆっくりとした動きですが段々と速くしていき、最後には絶対にできないような速度で行いますが、うまくできない時こそ、笑顔が生まれます。認知症の予防に大切なのは、身体を動かして頭を使うこと。そしてなにより、みんなが笑いあうことです。ココ・カラ元気広場にきた人が、「今日も楽しかったね」「また来るね」と笑顔で帰っていくのがとてもうれしいです。

皆さんが笑顔で帰っていくのがうれしい



ココ・カラ元気広場
講師 早川 啓子さん